

ISSN 1342-789X

駒澤短期大學

佛 教 論 集

第 十 一 號

2005年10月

駒澤短期大學

佛 教 科

二〇〇五年十月

駒澤短期大學佛教論集

第十一號

駒澤短期大學

佛
教
科

JOURNAL
OF
BUDDHISM

No.11 October 2005

Edited by
DEPARTMENT OF BUDDHISM
KOMAZAWA JUNIOR COLLEGE
TOKYO

JOURNAL
OF
BUDDHISM

No.11 October 2005

Edited by
DEPARTMENT OF BUDDHISM
KOMAZAWA JUNIOR COLLEGE
TOKYO

執筆者紹介 (掲載順)

- 桂 紹隆 (龍谷大学教授)
 袴谷 憲昭 (仏教科教授)
 岡本 一平 (仏教科非常勤講師)
 石井 公成 (仏教科教授)
 角田 泰隆 (仏教科教授)
 奥野 光賢 (仏教科教授)
 紺野 馨 (仏教科非常勤講師)
 池田 道浩 (仏教科非常勤講師)
 木村 誠司 (仏教科教授)

編集後記

▽「駒澤短期大学仏教論集」第十一号をお届けいたします。本号も例年通り期日内に発行できたことを、初めての編集係としてはまず安堵しているというのが率直なところです。夏休み前の原稿締切、そして酷暑の休暇中の校正にとご協力いただいた諸先生に心より感謝申し上げます。

▽巻頭には、昨年の仏教科公開講演会における桂紹隆先生のご講演「袴谷・松本両氏の仏

教理解に対する若干の異議申し立て」を掲載させていただきました。実は桂先生より事前にいただいた演題は公開講演会当日のものとは違ったものでしたが、せっかく本学での講演なのだからということで先生が急遽演題を変更をされてのご講演となりました。正直のところ、この演題ならばもっと聴衆が集まっただろうと当日は残念に思いましたが、今回その日の桂先生の学究者としての真摯なお姿が見事に再現され、これを多くの方々に読んでいただけるようになったことは慶びに堪えません。ご多忙の中、本論集のためにご尽力いただいた桂先生にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

▽全国的な短期大学の傾向のご多分にもれず駒澤短期大学も近年、入学志願者の減少が続いていましたが、残念なことにこのほど平成一八年度より学生の募集を停止し、在学生の卒業をもって短期大学は廃止することが正式に決定されました。半世紀に及ぶ駒澤短期大学の歴史が閉じられようとしていることはまさに断腸の思いですが、在学生のいる限りなお一層の教育的努力を続けていきたいと思っています。と同時に数が減ったとはいえないとお社会人の方々を中心に仏教を学びたいと

いう需要はあるわけですから、今後はこうした需要の受け皿を模索することも必要であると愚考します。

▽戦後六十年、日本は政治的にも経済的にも大きな転換期にさしかかっているようです。社会も大学も言いようのない閉塞感が漂っています。何かきな臭さも感じますが、暗い時代に逆行することのないようしなければなりません。

▽初めての編集係で諸先生にはご迷惑をおかけしました。この経験を活かして来年はもっと円滑に編集作業が出来ることでしょう。来年も出来ればこの「編集後記」を書けることを切望しています。(編集係 奥野光賢)

駒澤短期大学仏教科
仏教論集 第十一号

二〇一五年十月三十一日 発行

発行人 駒澤短期大学仏教科研究室

代表 木村 誠司

発行所 駒澤短期大学仏教科研究室

東京都世田谷区駒沢一丁目

印刷所 (株) 東京技術協会

東京都港区三田四一八―四一